

間に於ける見物人の驚きは、又大したものだつた。一思ひに飛びかゝつて食ひ殺すだらうと思つた其獅子が、打つて變つて音なしくなつて、丸で飼犬が主人に甘つたれる様な調子で、アンドロクルスに纏き付いて居る。

餘りの不思議に、これには何か所以があるだらうといふので、役人どもはよつて集つて、其譯を話させた。そこで、アンドロクルスは、何時か山の中で獅子を助けた話をして、其助けた獅子といふのは、はからずも茲に立つて居るこの獅子だつたといふことを演説しました。

大勢の見物人は此話を聞いて、非常に感動しました。そこで、アンドロクルスを放免してやることを役人に願ひました所が、役人も尤だと思つて、とうとう彼を宥して、おまけに、此忠實な獅子を

も與へたといふ事でありませす。

眞實の饗應

き み 子

ある人が、親類の家へ遊びかたぐ尋ねて行きました。親類の人といふのは、いつでも御客に愛相のよい人でありませすから、大變に喜んで、いろいろ御馳走をして饗應しました。そして、お別れの時になつてからも、一向御馳走も何もなかつて、御氣の毒であつたといふことを、くれぐれも言譯致しました。

すると、其人の申しますには、

「いえ、澤山御馳走になつて、御禮の申し様もございませせん。然し、この次あなた、私の家へ御いで下さつた時には、夫こそ今日あなたが、私を

もてなして下さつたよりも、もつとよくお饗應しやうと思ひます』

といつて歸りました。

夫から、暫くしてから、今度は、其親類の方から尋ねて行きました、勿論心の中では、先日あれ程に言つた事だから、多分大變な饗應になる事だろらと思ひ込んで行つたのであります。所が、行つて見て驚いた。と申すのは、御馳走の用意などは一向見えない。そこで、これは案外だと思つて居ますと、主人は夫と察して『先日御話致しましたでしょう、私はあなたがおもてなし下さつたのよりは、もそつとよくお饗應をしようといふ事を。あなたのお家では、いやもう大變な御馳走になりました。然し申さば始めての御交際でも願ふ他人でもあつたかの様です、

私はなんにも致しませぬ。何故かと申しますと、私はあなたを私の親愛なる家族の一人として見ますからです。眞實の饗應と申しますものは、そんなに格段の用意だの心配だのを致しませんが、心から歓迎を致す事で、十分出来やうと存じます』と申しました。

懸賞考へ物一題

今年から高等科に入ることになつた妾の一人の妹に、或日養蠶を手傳はせて居ました時、妾は次の考物を出して、當てたら何でも好きなものを上げると申しました。一生懸命に考へて居る風ですが、まだ考へ當たりません。それで、本誌へ出して愛讀諸姉の嬢ちゃんや、坊つちやんにお答を求めます。